

医療施設のSDGsの現状

➤ いわゆる環境保全、省エネには出遅れている

なぜなら

SDGsの視点で考えた時、医療施設には

優先して拾い上げる課題が他にあるから。

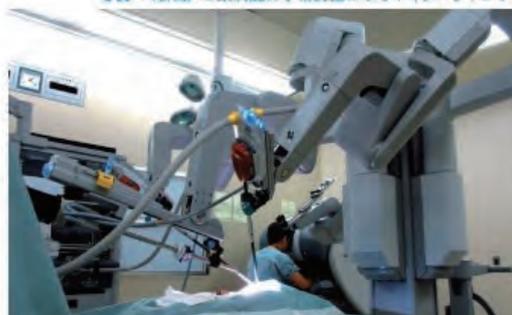
たとえば

- 03. すべての人に健康と福祉を → 本業のテーマ
- 11. 住み続けられるまちづくりを → 在宅復帰の支援
- 17. パートナーシップで目標を達成 → 医療機関や福祉施設との連携

医療施設のSDGsの現状

国連の目標	済生会の指針
<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 3 すべての人に健康と福祉を </div> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>	<p>地域医療への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公的医療機関としてこれからも地域医療へ貢献する <p>総合的な医療・福祉サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者のみならず、障がい者、児童及びホームレス、刑務所出所者等の生活困窮者に対して、包括的な支援・サービスを提供する <p>積極的経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 増大する役割に的確に応じるため、「攻めの経営姿勢」で臨み、質の向上、業務範囲の拡大、提供サービス事業量の拡大を図る
<p>済生会が推進していく活動</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 保健・医療・福祉を総合的に担うことができる済生会は、高齢者、障がい者、児童及びホームレス、刑務所出所者等の生活困窮者に対して、包括的・継続的なサービスの提供を行なう ● 患者や利用者と、地域、行政、各種団体等とのつなぎ役として「済生会地域包括ケア連携士*」を育成し、包括的なサービス提供体制の充実を図る 	

写真＝(新潟) 三条病院の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」



写真＝2016年8月の台風被害で運営を休止した(若手)岩泉町立安家(あづま)診療所の診療が再開。岩泉病院では医師や職員を派遣している

医療施設のSDGsの現状

国連の目標	済生会の指針
<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼で きる持続可能な近代的エネル ギーへのアクセスを確保する</p> 	<p>医療・福祉サービスの質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 施設・設備の近代化の促進 <p>↓</p> <p>済生会が推進していく活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー効率の改善を図るため、必要性、採算性、資金調達方法を考 慮しながら、施設・設備の近代化、エネルギーの効率的な活用、再生エネ ルギーの活用を推進する
	<p>省エネ診断など設備面での対策はもちろん、全国の担当者が様々な手法を学ん だり議論を深め合う「省エネ推進会議」を開催するなど、職員全体への省エネ 意識の浸透を図っている 写真＝熊本病院の外来がん治療センターは「構造 的に環境に配慮した緑化」が設計コンセプト。建物中央部分が吹き抜けにな っており、晴天時は1階から4階まで照明が不要</p>

済生会ホームページ「SDGsと済生会」より引用



医療施設のSDGsの現状

国連の目標	済生会の指針
<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> <p>強靱（レジリエント）なインフラ構築、 包摂的かつ持続可能な産業化の促進お よびイノベーションの推進を図る</p> 	<p>地域医療への貢献</p> <p>総合的な医療・福祉サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最新テクノロジーを活用した医療・介護サービス等の提供
<p>↓</p> <p>済生会が推進していく活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 包摂的かつ持続可能な産業化、イノベーションの促進等を図るため、ICT（情報通信 技術）の整備、AI（人工知能）を活用した医療、手術、介護支援のロボット技術等の最 新テクノロジーを活用した医療や介護サービスを提供する 	
	 <p>保健・医療・福祉の質の向上を目指し、最新テクノロジーを活用する他、本会のスケ ールメリットを生かして組織横断的グル ープが研究活動をしている 写真＝東神 奈川リハビリ病院は「スマートリハ」の 中核施設の一つとして、先進的なリハビ リテーション治療を推進</p>

済生会ホームページ「SDGsと済生会」より引用



医療施設のSDGsの現状

国連の目標	济生会の指針
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>医療・福祉の周辺分野への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療、福祉、住まい、就労、教育、生活費等の多種多様に複雑化した問題を抱え、多様な援助を必要とする人々への支援 <p>まちづくりへの寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行政、団体、企業等と連携し、経済、社会、文化、環境など多様な面で発展するまちづくりへ寄与する
	<p>济生会が推進していく活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべての人々が安心して住み続けられるまちづくりのために、高齢者、障がい者、児童及びホームレス、刑務所出所者等すべての人々に対して、保健・医療・福祉サービス等の提供を通じて、雇用創出、産業振興、居住人口増加等の機能を果たし、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるようなまちづくりに寄与する

写真=兵庫県济生会が神戸市の団地に開設した高齢者向け相談所「なでしこ暮案部」。孤独死等を防ぐため、職員が団地を巡回・訪問している

济生会ホームページ「SDGsと济生会」より引用



医療施設のSDGsの現状

国連の目標	济生会の指針
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>災害対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病院におけるBCP（事業継続計画）マニュアルの整備 ● 広域災害を想定した訓練の実施 ● DCAT（災害派遣福祉チーム）の派遣体制の構築 ● 東日本大震災復興支援事業の推進
	<p>济生会が推進していく活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気候関連災害や自然災害等に対処していくために、本会病院のBCPマニュアルの整備、複数病院間で連携する広域災害を想定した災害医療訓練の実施、ロジスティクス担当者の育成を進める ● DCAT（災害派遣福祉チーム）*の派遣体制を構築する ● 陸前高田診療所において被災地の医療・福祉の再建支援事業を進め、地域の活性化に取り組む

写真=特養なでしこ香川の屋上にあるソーラーパネル

写真=2016年4月発生した熊本地震で、熊本病院は直ちにトリアージブースを設置、続々と運ばれる救急患者に対応した



写真=2016年8月の東北地方を襲った台風10号による被害で支援活動中のDCAT隊員

济生会ホームページ「SDGsと济生会」より引用



医療施設のSDGsの現状

SDGs・ESGに関して
具体的に行動していま
すか？



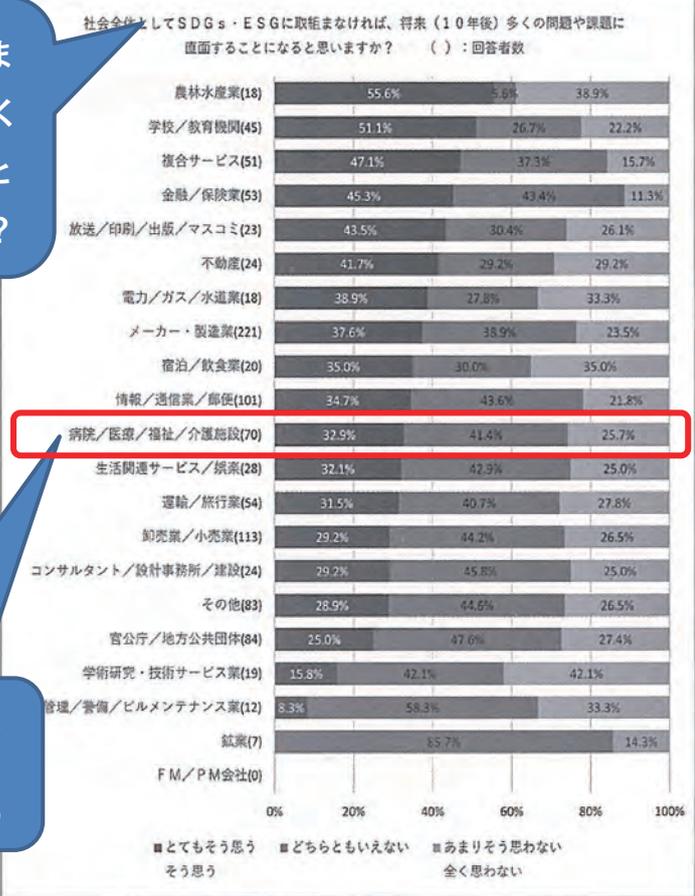
行動している 8.6%
どちらともいえない 14.3%
行動していない 77.1%



図表8 所属先企業・団体等の業種と具体的な行動（一般ワーカー調査）

医療施設のSDGsの現状

社会全体として取組ま
なければ、10年後多く
の問題に直面すること
になると思いますか？



そう思う 32.9%
どちらともいえない 41.4%
そう思わない 25.7%



図表9 所属先企業・団体等の業種と危機意識（一般ワーカー調査）

医療施設のSDGsの現状

アメリカやヨーロッパの病院FMは「体制」に特徴

- チューリッヒ大学病院
 - ・ サプライチェーンマネジメント（調達・物流）
 - ・ 不動産マネジメント（長期建替え計画）
 - ・ ホスピタリティマネジメント（病院食提供などカスタマーサービス）
- オランダラドバウド大学病院
 - 「ハードFM」 施設管理、駐車場管理
 - 「ソフトFM」 食事の提供、満足度調査
- アメリカ病院協会
 - 施設の保守・維持管理、建設プロジェクト管理、満足度調査



JFMAヘルスケアFM研究部会



医療施設のSDGsの現状

- SDGsの視点で考えた時、医療施設には 優先して拾い上げる課題ある。

それならば

- FMerのミッションは？
 - ・ 医療福祉施設の課題解決に邁進する
 - ・ 持続可能なシステムや、インフラの構築
 - ・ 環境保護や省エネなどにアンテナを張る

JFMAヘルスケアFM研究部会

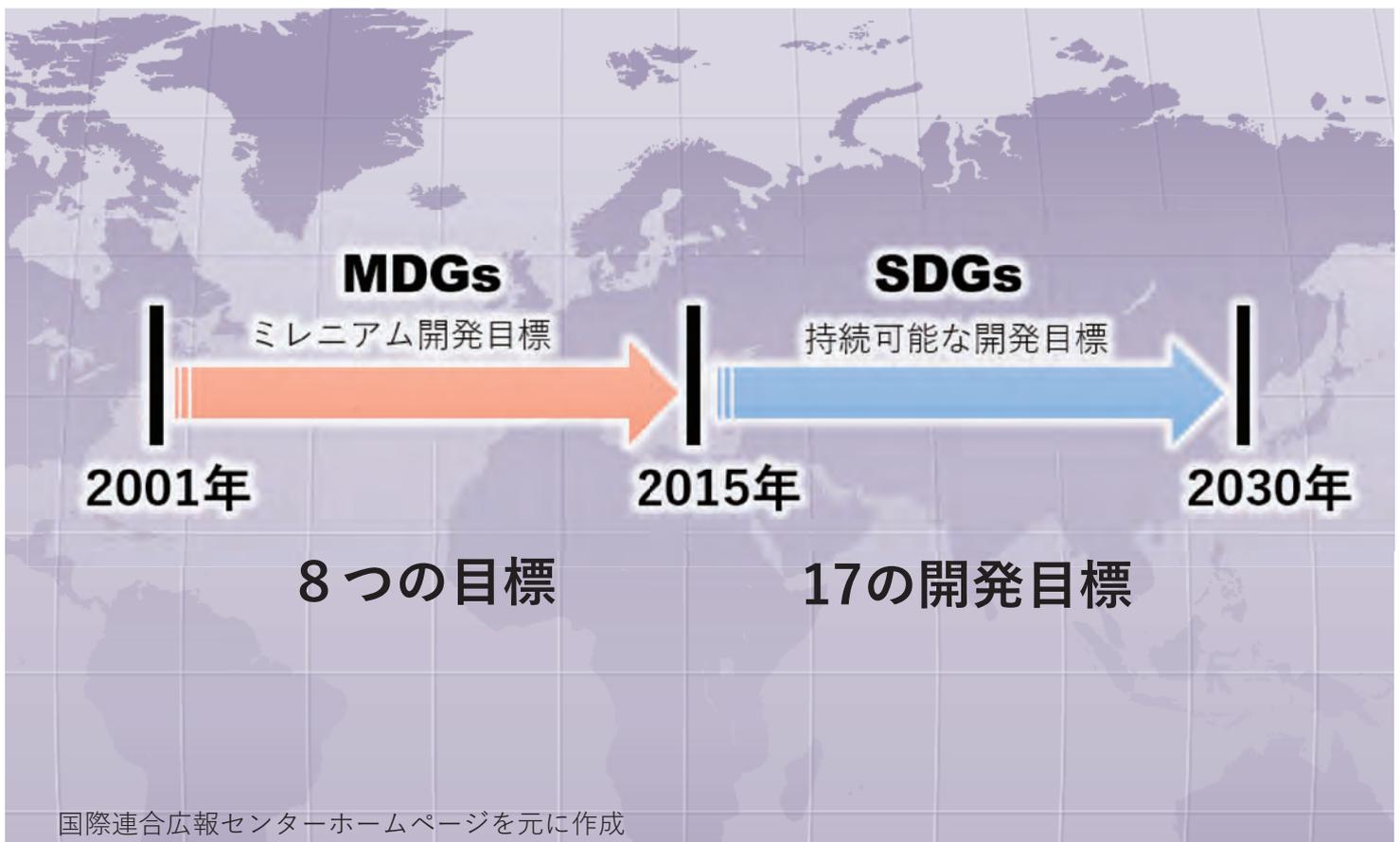


本日の内容

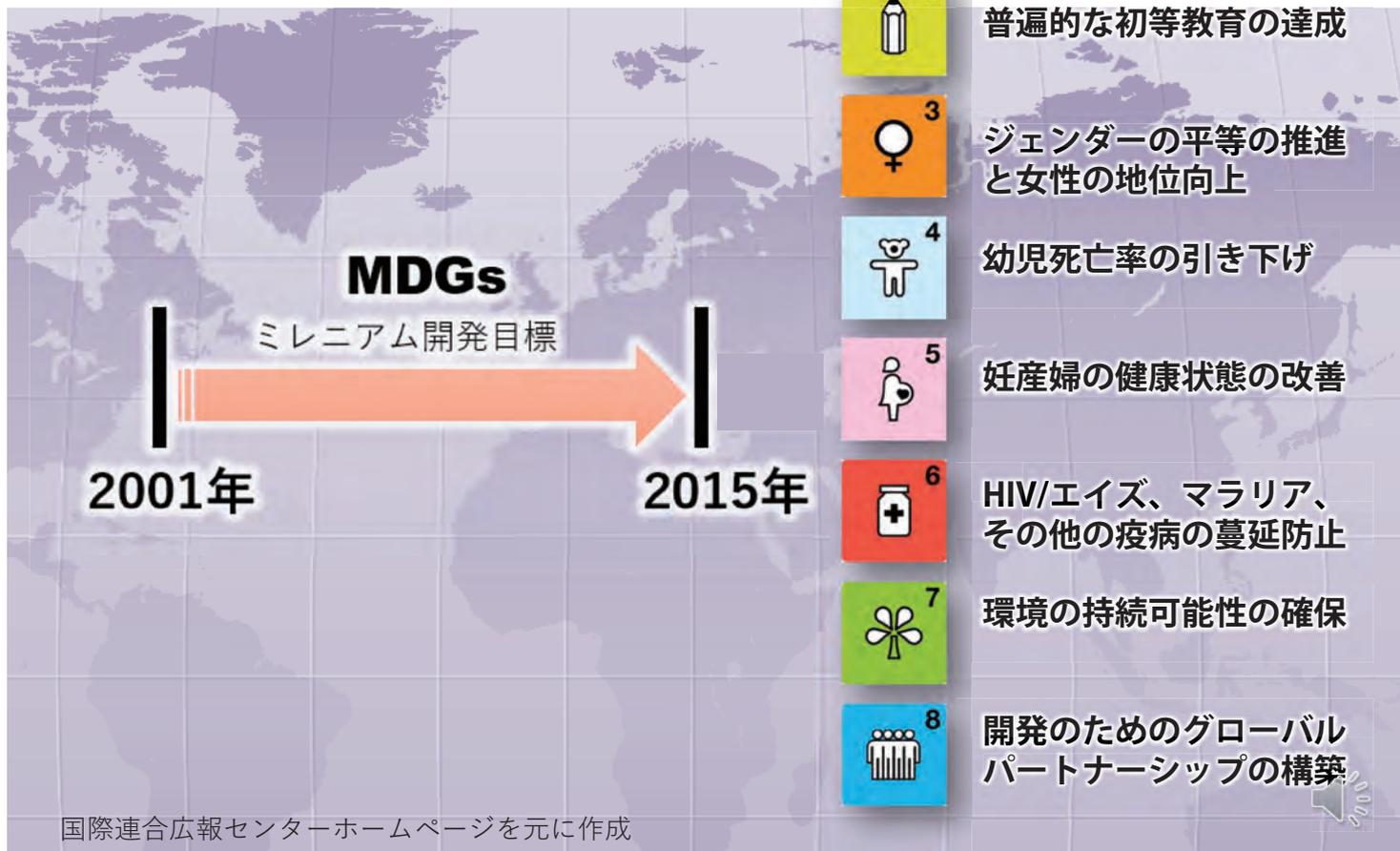
- 医療施設のSDGsへの取り組みの現状
 - ・ 出遅れ感があるのはなぜか
 - ・ 「SDGsで変わるファシリティマネジメント」の事例から
- 国際保健領域のMDGsからSDGsへの取り組み
 - ・ SDGsの理念のひとつ「誰一人取り残さない」でPDCAをわかりやすく回している

JFMAヘルスケアFM研究部会

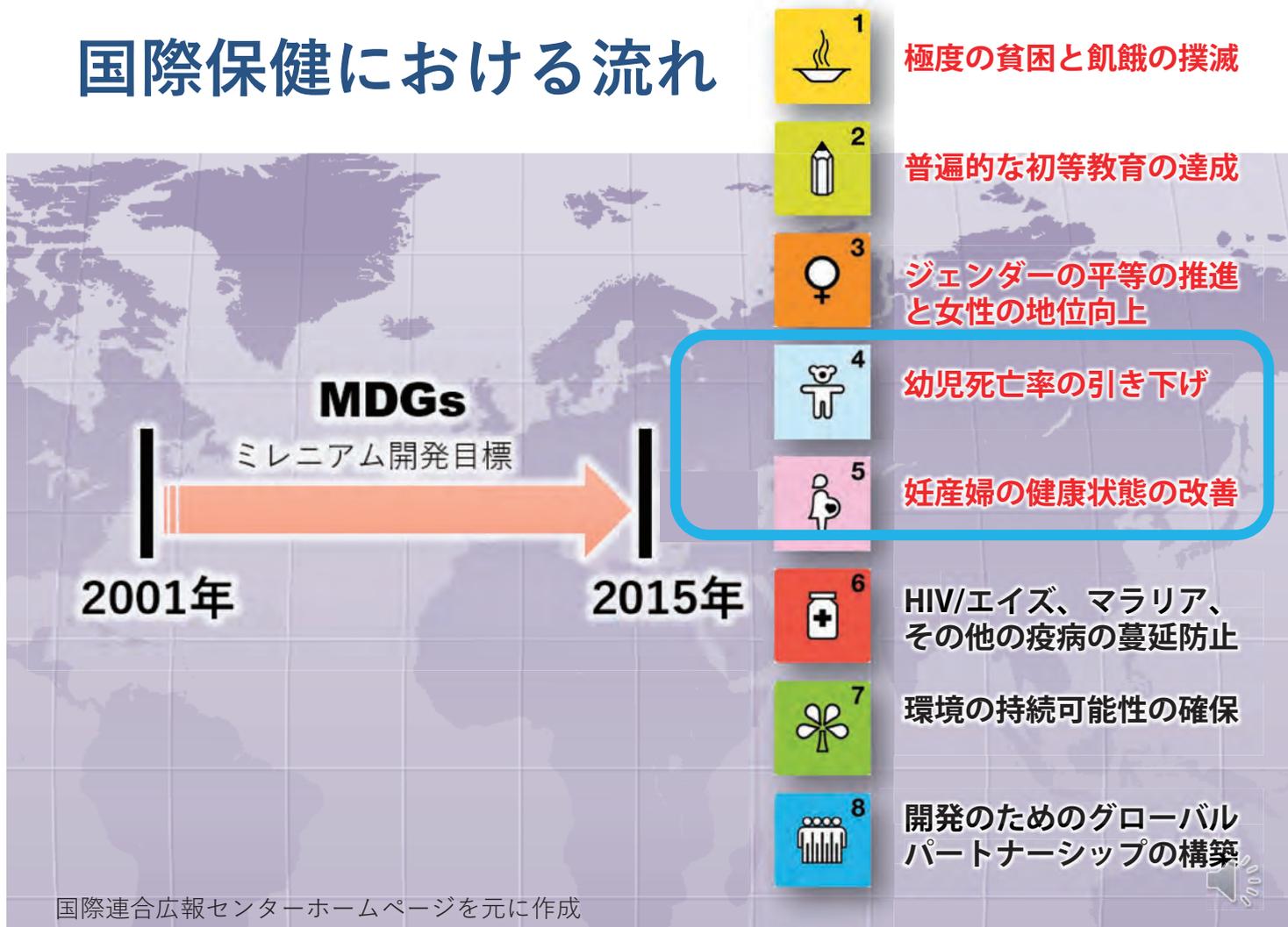
国際保健における流れ



国際保健における流れ



国際保健における流れ



国際保健における母子保健



MDGs 時代

ミレニアム開発目標 Millennium Development Goals

2000年9月の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と、1990年代に多くの国際会議やサミットで提唱された開発目標を統合し、2015年を期限として一つの共通の枠組みとしてまとめたもの。8つの目標からなり、主に目標4と5が母子保健関連。

- 目標4: 小児死亡の削減
2015年までに5歳未満児の死亡率を1990年の水準の3分の1に削減する。
- 目標5: 母性保健の改善
2015年までに妊産婦の死亡率を1990年の水準の4分の1に削減する。

PDCAの1回目: 目標設定

5歳未満児死亡率（1960年）

こどもを死なせない

1960年



国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成
JFMAヘルスケアFM研究部会

5歳未満児死亡率（1979年）

こどもを死なせない

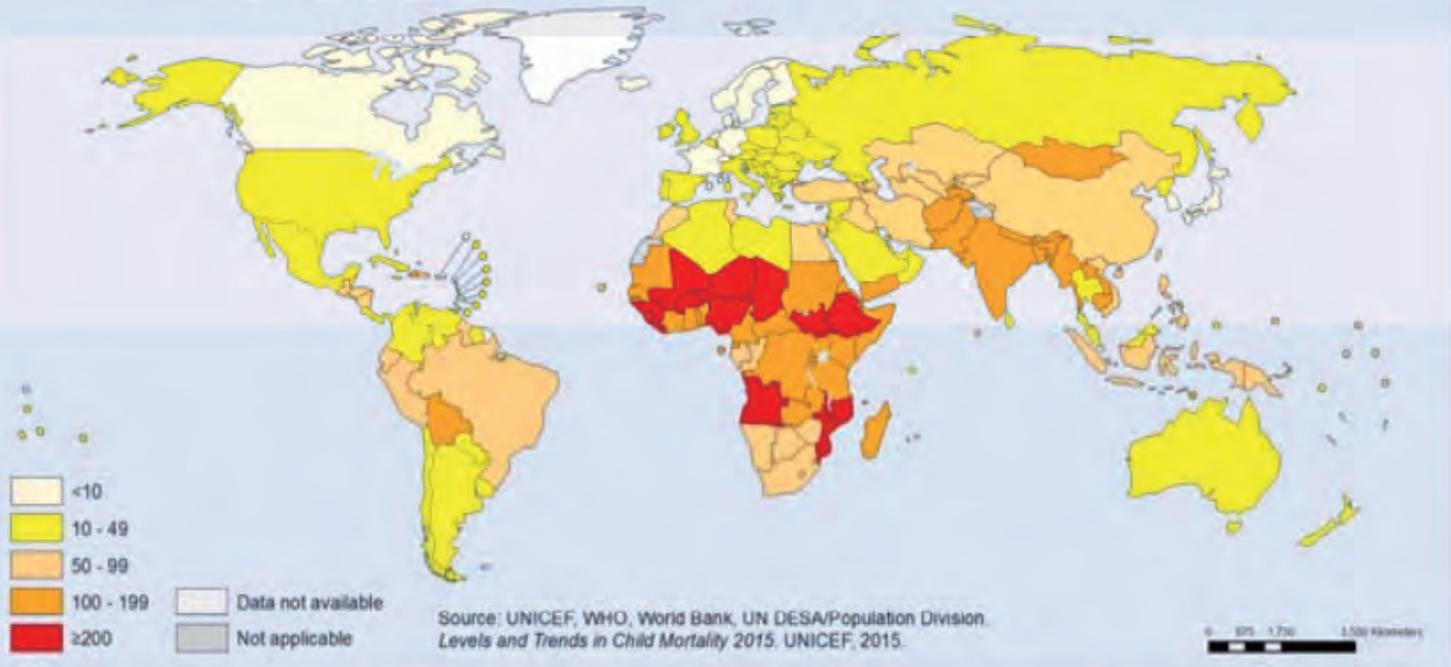
1979年



国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

Under-five mortality rate (probability of dying by age 5 per 1000 live births) 1990

こどもを死なせない



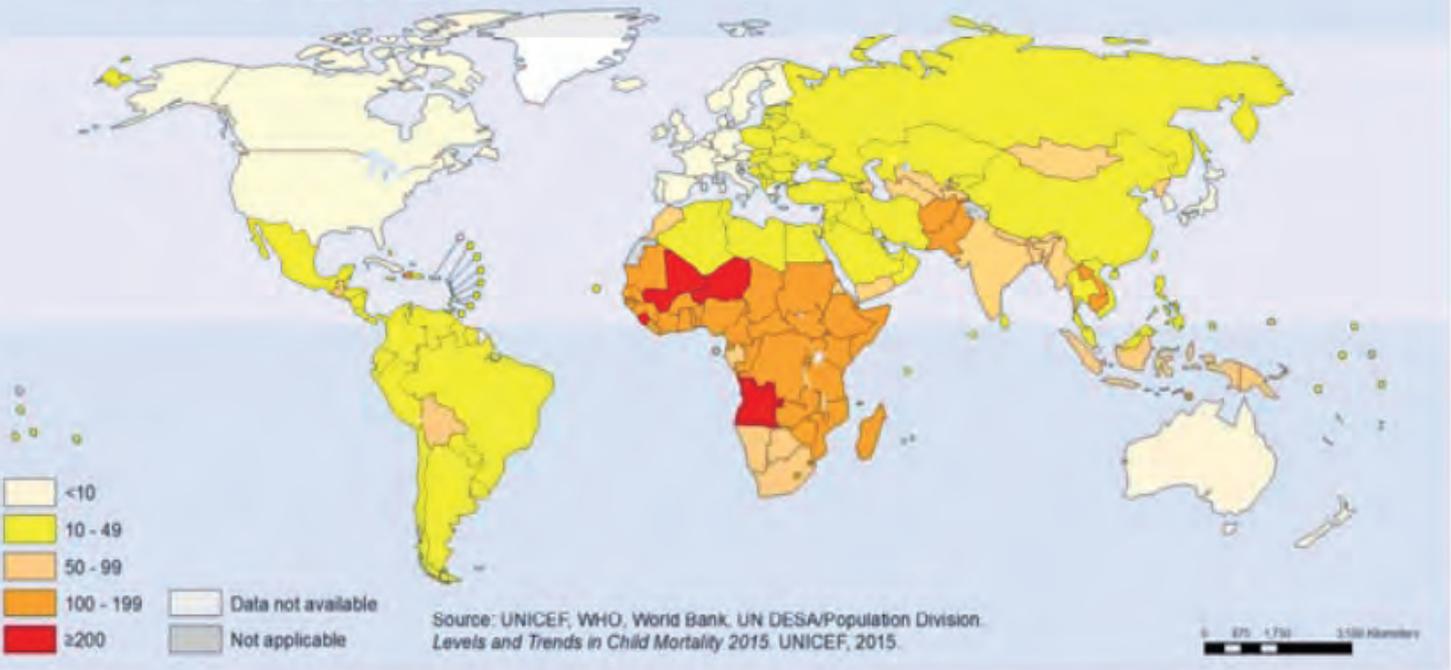
PDCAの1回目：集中的に対策すべき地域がわかるようになった

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

J F M AヘルスケアFM研究部会

Under-five mortality rate (probability of dying by age 5 per 1000 live births) 2000

こどもを死なせない

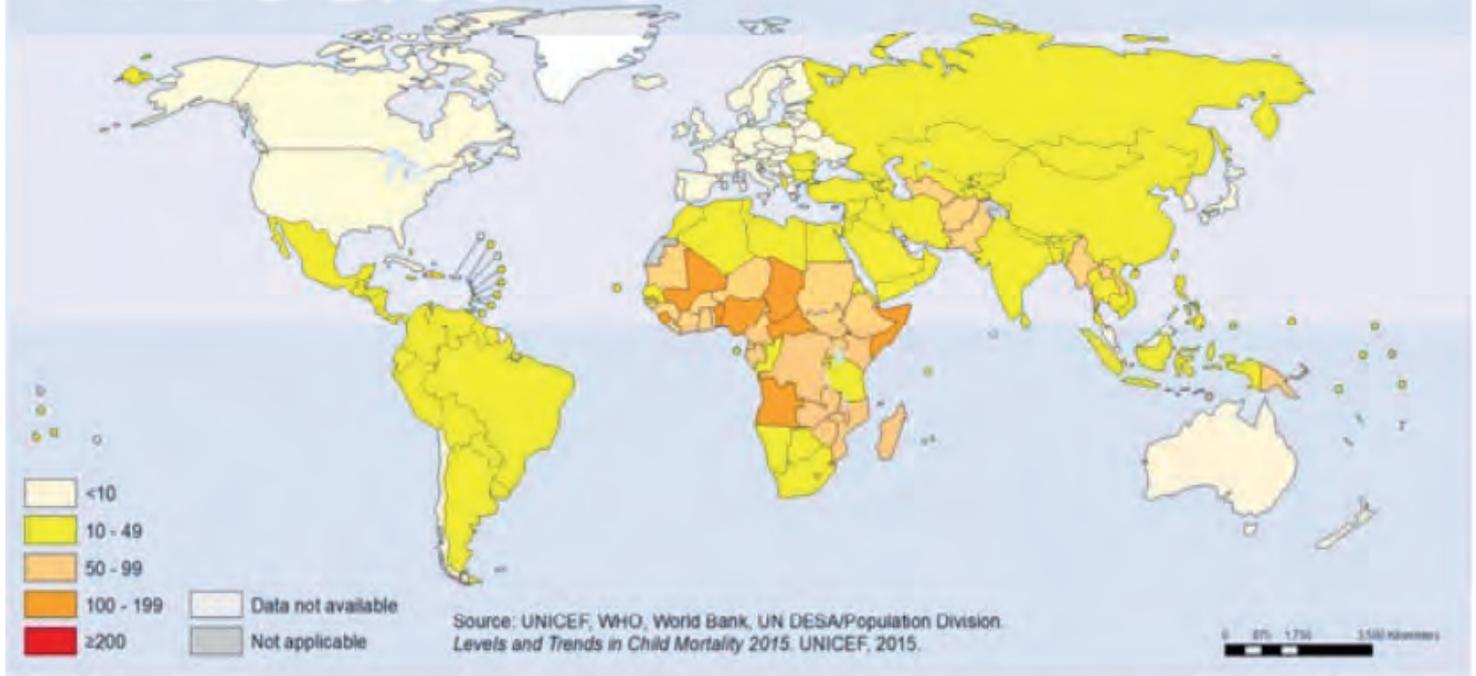


PDCAの1回目：集中的に対策すべき地域に対し計画を実施

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

J F M AヘルスケアFM研究部会

こどもを死なせない



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization or concerning the delimitation of its frontiers or for which there may not yet be full agreement.

PDCAの1回目：目標をほぼクリア

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

J F M AヘルスケアFM研究部会



MDC4の達成度

こどもを死なせない

Millennium Development Goal- 4

- 世界の5歳未満児死亡数
 - 1990年： 1,270万人 (毎日3万5,000人)
 - 2015年： 590万人 (毎日1万6,000人)
- 5歳未満児死亡率
 - 1990年： 91
 - 2015年： 43 (53%削減)

PDCAの1回目：目標をほぼクリア

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

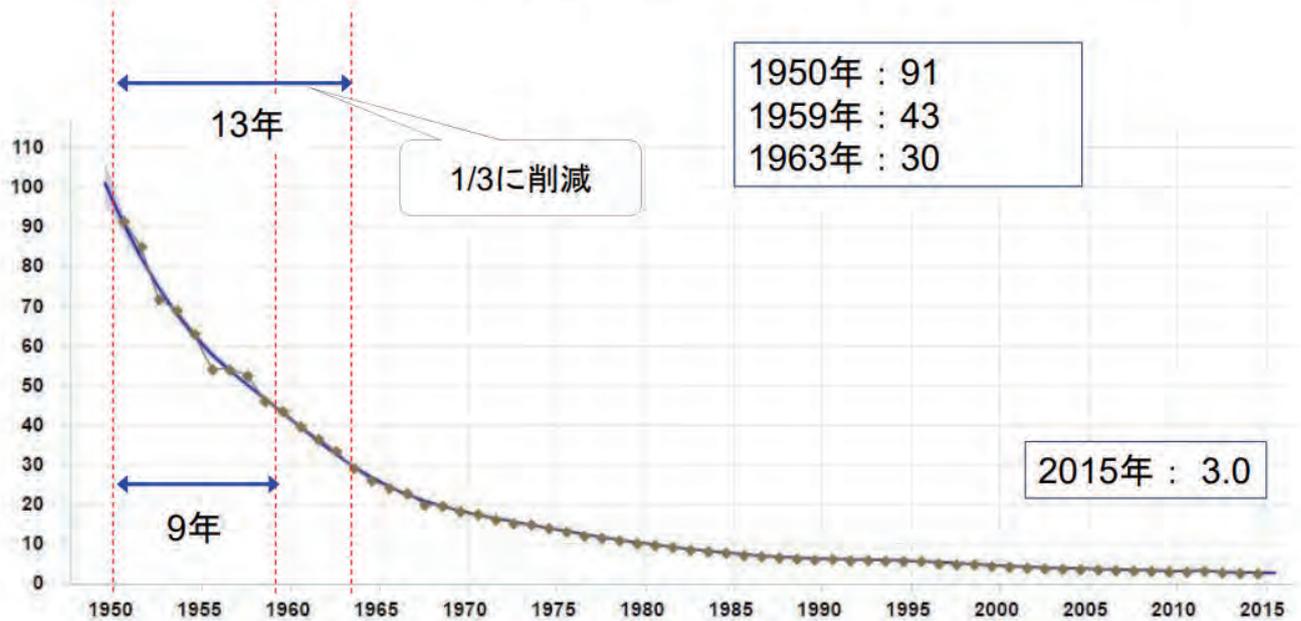
J F M AヘルスケアFM研究部会



日本の5歳児未満児死亡率は？

Millennium Development Goal- 4

世界の1990年～2015年の変化（91→43）は日本ではいつ頃のこと？



Source: Child Mortality Estimates (http://www.childmortality.org/index.php?r=site/graph#ID=JPN_Japan)

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

J F M AヘルスケアFM研究部会



新生児を死なせない

2000年代半ば、それまで取組みの遅れていた新生児保健に注目が集まり始める。

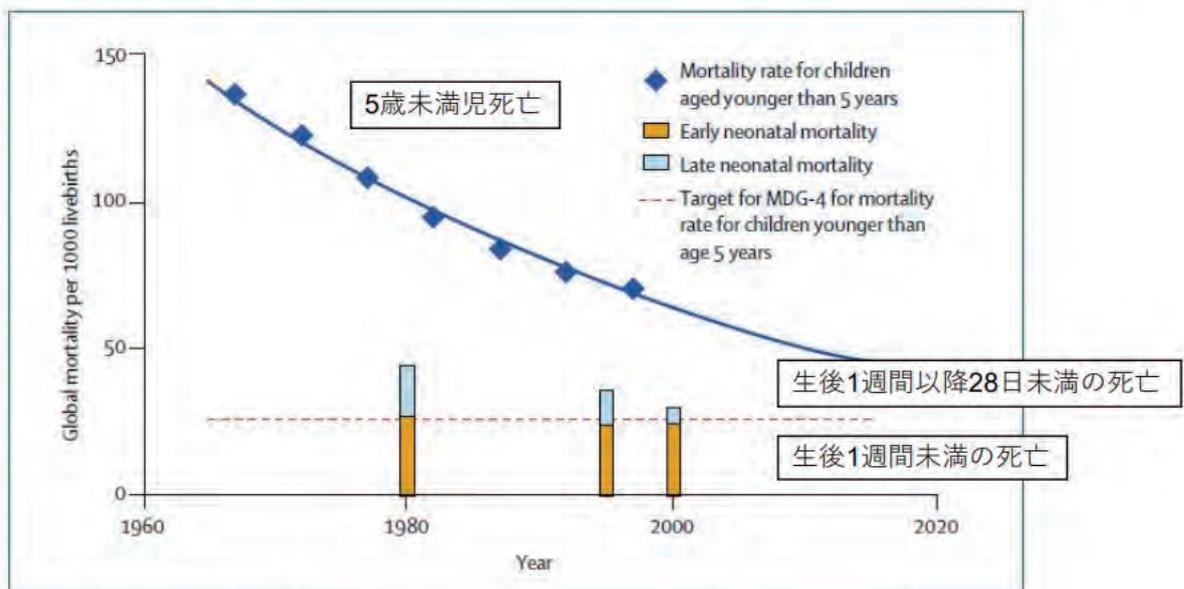


Figure 28 day Trend

PDCAの2回目：次の目標にとりかかる

Joy E Lawn, Simon Cousens, Jelka Zupan, for the Lancet Neonatal Survival Steering Team. 4 million neonatal deaths: When? Where? Why?. *Lancet* 2005; 365:891-900.



新生児を死なせない

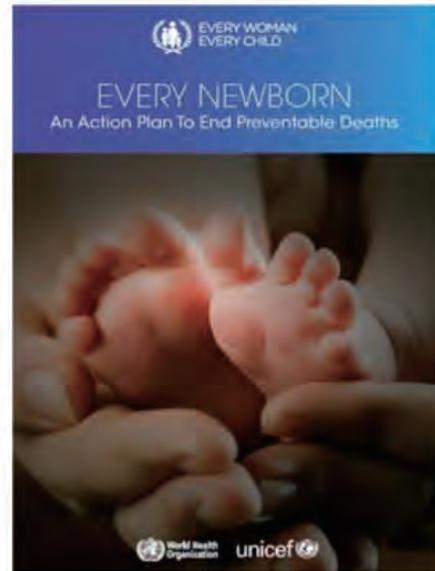
Every Newborn 予防可能な死をなくすための行動計画

2014年第67回世界保健総会で承認

- 目標：2035年までに予防可能な新生児死亡と死産をなくす

		新生児死亡率	死産率※
2035年	国	10	10
	世界	7	8

※生まれたときに生命兆候のない1000g以上もしくは満28週以上の児（対1000出産）



PDCAの2回目：次の行動計画をたてる

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成



新生児を死なせない

カンガルーマザーケア

- 裸の低出生体重児を母親（父親・家族のこともある）が直接肌に抱く（Skin to Skin Contact）。
- 1979年、保育器不足解消のためコロンビアのボゴタで開始。
- 1984年よりUNICEFが勧奨、中米中心に世界に広がる。
- 現在NICU入院中の先進国の未熟児にもさかんに行われている（逆輸入）。



PDCAの2回目：次の行動を実施する

国立国際医療研究センター国際医療協力局
岡林広哲医師の資料を元に作成



新生児を死なせない



【時代遅れで害のあるケア】
生まれた直後にお母さんから引き離された赤ちゃんは、泣き叫び、低体温になり、危険な細菌にさらされることになる。

生まれた直後から最低1時間、お母さんと皮膚を密着している赤ちゃんは、ピンク色で温かく落ち着いていて、健康。



Source: Action plan for healthy newborn infants in the Western Pacific Region (2014–2020)

PDCAの2回目：次の行動を実施する

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成



SDGsにおける母子保健のターゲット

SDG 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

■ 妊産婦死亡率 (3.1)

世界の妊産婦死亡率を出生 10 万あたり 70 未満に削減する

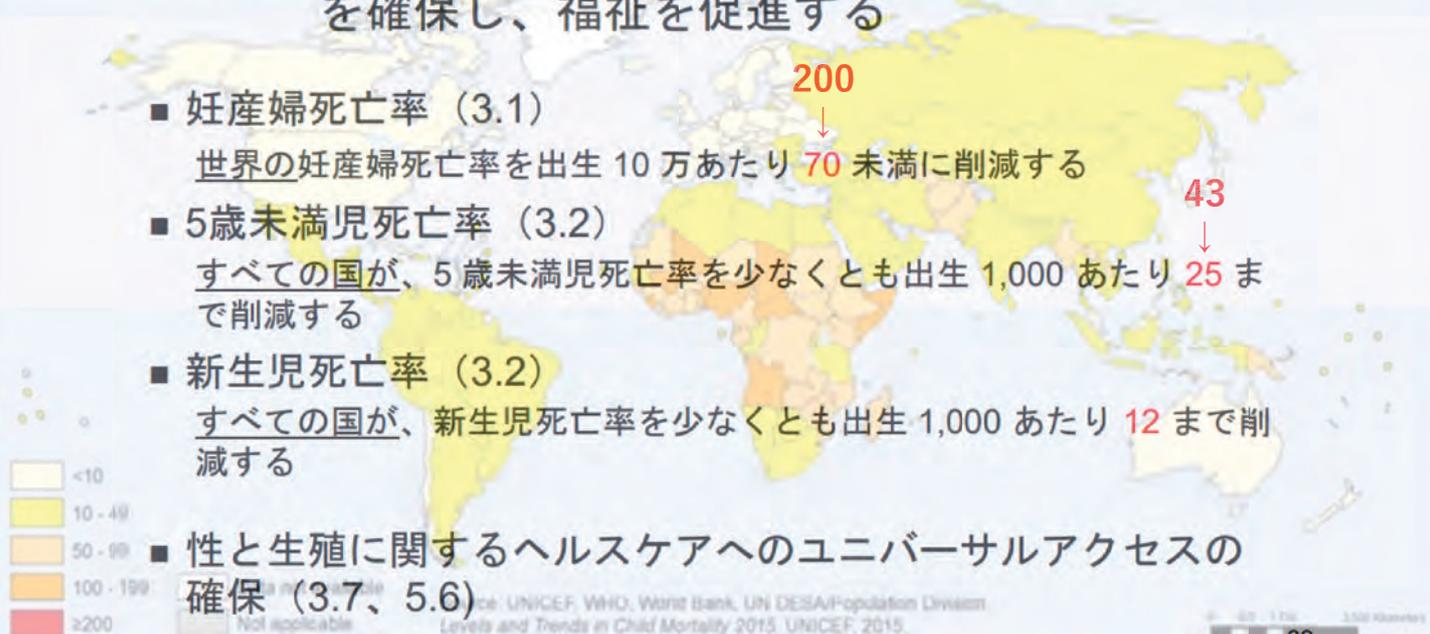
■ 5歳未満児死亡率 (3.2)

すべての国が、5歳未満児死亡率を少なくとも出生 1,000 あたり 25 まで削減する

■ 新生児死亡率 (3.2)

すべての国が、新生児死亡率を少なくとも出生 1,000 あたり 12 まで削減する

■ 性と生殖に関するヘルスケアへのユニバーサルアクセスの確保 (3.7, 5.6)



PDCAの2回目：目標を達成

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

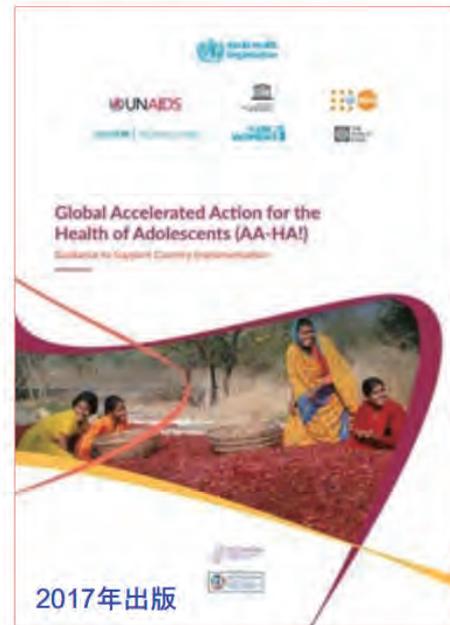


10代の男女を死なせない

世界では毎年どれくらいの10代の男女が死んでいるのか？

- 10代の男女の死亡
 - 120万人(2015年)
 - 低中所得国：118万人(97%)
 - 高所得国：3.1万人
 - 毎日3,000人
- 2000年から2012年までの死亡率の削減

5歳未満児	38%
10代の男女	12%

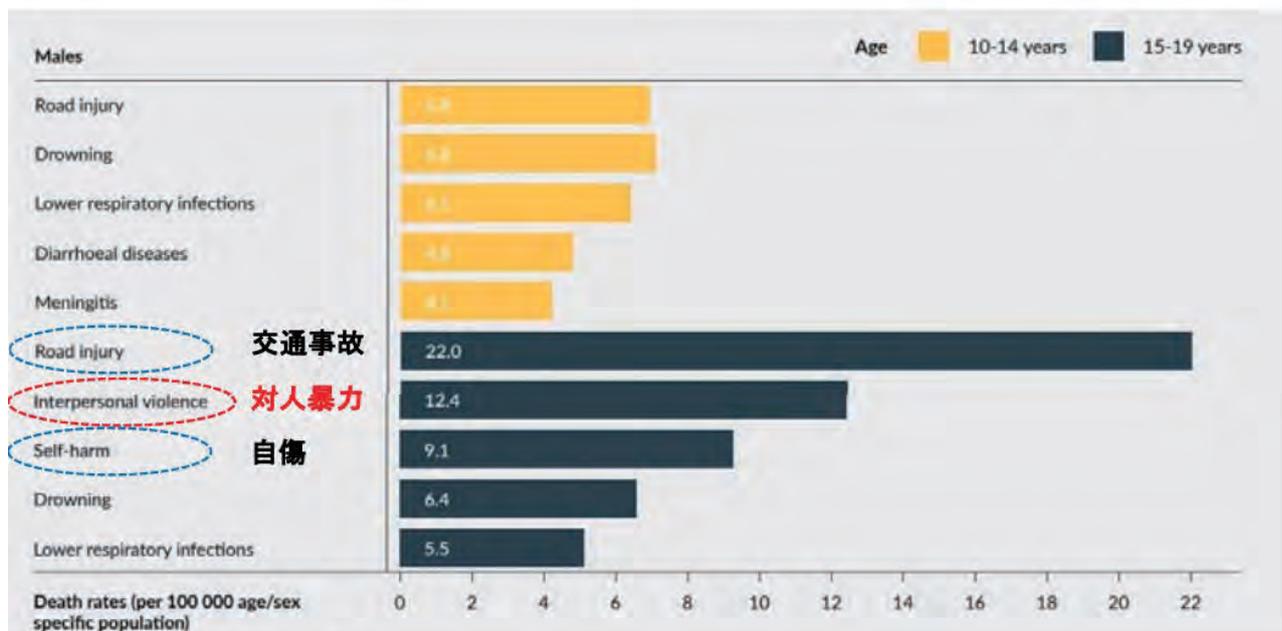


PDCAの3回目：さらなる目標に沿って調査する

国立国際医療研究センター国際医療協力局
岡林広哲医師の資料を元に作成



10代の男性の死亡原因（2015年）



関係するSDGターゲット

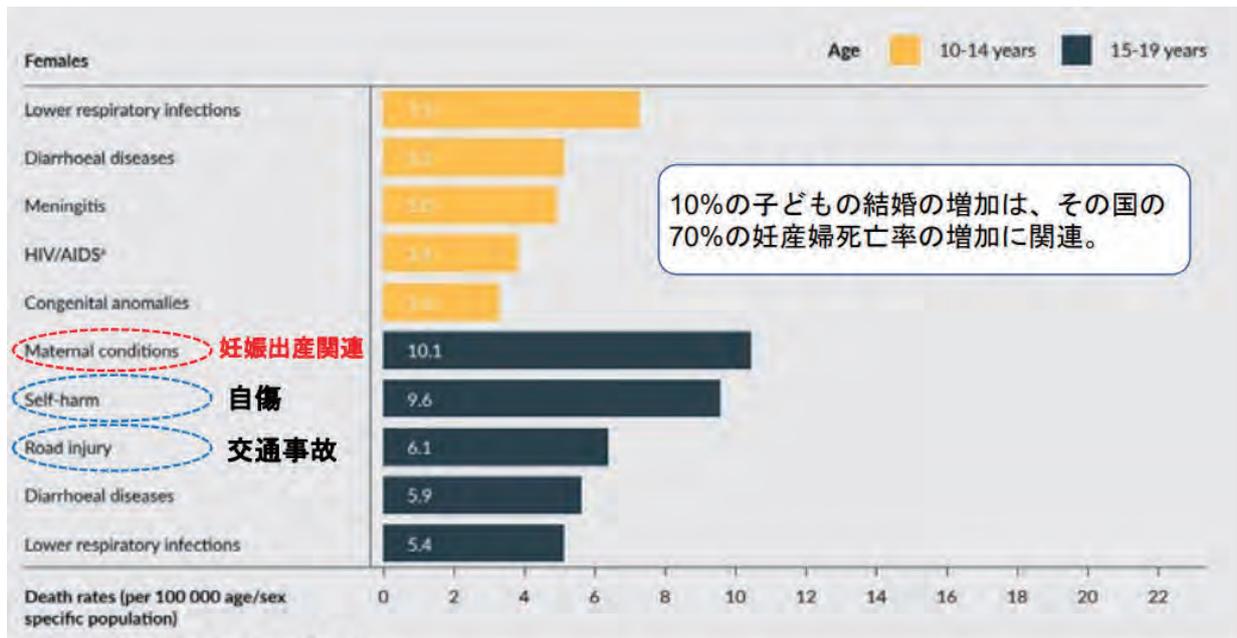
- (3.6) 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
- (16.1) あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。

PDCAの3回目：さらなる目標に沿って調査する

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成



10代の女性の死亡原因（2015年）



関係する SDG ターゲット

- (5.2) 人身売買や性的、その他種類搾取など、すべての女性に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- (5.3) 未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。

PDCAの3回目：さらなる目標に沿って調査する

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

教育により死なせない Early Childhood Development

死亡率を下げるために
教育が必要になってくる

SDG4 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

(4.2) 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い Early Childhood Development ケア 及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。

- Early childhood development は 受胎から8歳までの期間 をカバー
 - 認知、身体、言語、気質、社会情緒、運動の発達を網羅。
- 受胎から3歳までの期間 がとりわけ重要
 - 脳の発達
 - 悪影響と、リスクを軽減し、発達を最適化する介入の両方に、最も感受性が高い

PDCAの3回目：新しい計画をたてる

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

貧困をなくすことで死なせない

Early Childhood Developmentへの投資

- 低、中所得の5歳未満児の43%は、貧困と成長障害により、最適に発達できないリスクがある。
- Early Childhood Development への投資は、生涯を通じた健康、生産性、社会的結束を向上させ、世代を越えて利益をもたらす。
 - 国が、共有された繁栄を後押しし、包摂的な経済成長を促進し、公平な機会を拡大し、極度の貧困を終わらせることができる、最善策の一つ。

NURTURING CARE FOR EARLY CHILDHOOD DEVELOPMENT

A FRAMEWORK FOR PROMOTING CHILDREN'S SURVIVAL AND THRIVE TO TRANSFORM HEALTH AND HUMAN POTENTIAL



受胎から3歳までの期間にフォーカス

2018年出版

PDCAの3回目：計画を実施する

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

「死なせない」から「健康」へのシフト

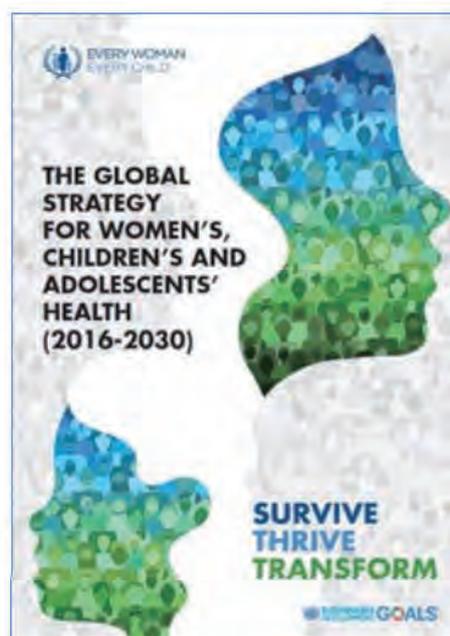
女性、子ども、10代の健康のための世界戦略

SDGsとともに、2015年の国連総会で採択。

- Reproductive, Maternal, Newborn, Child and Adolescent Health
→ RMNCAH
- 「Adolescent」のWHOの定義は10代の男女

3本柱

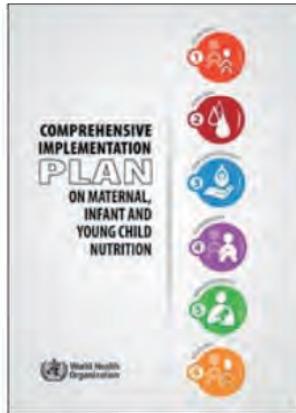
- 生き延びる; 予防可能な死をなくす
- 栄える; 健康と健康であることの確保
- 変える; 可能とする環境の拡大



PDCAの3回目：さらなる目標をたてる

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成

栄養も重視されるように 2025年までに達成すべき6つの世界目標



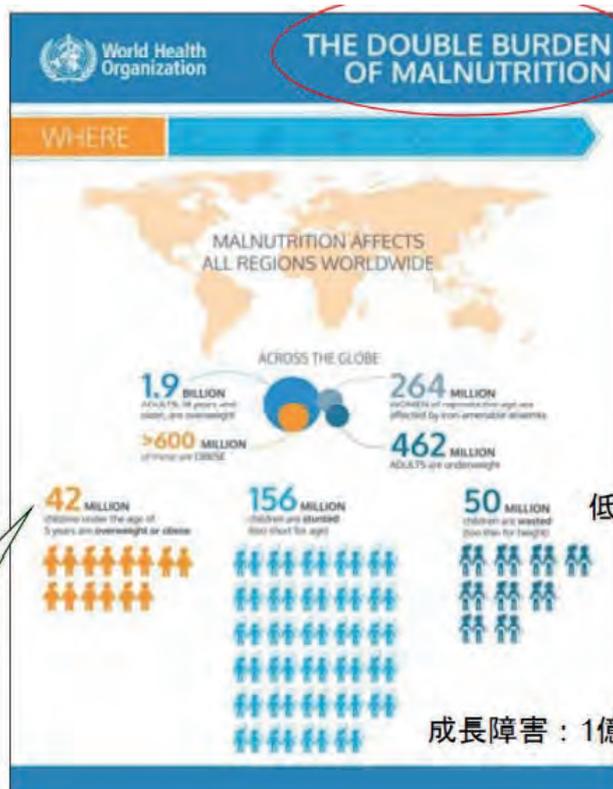
母性、乳児、幼児の栄養に関する包括的実施計画（WHO, 2012年）

	Stunting 成長障害 TARGET: 40% reduction in the number of children under-5 who are stunted => 50%削減
	Anaemia 貧血 TARGET: 50% reduction of anaemia in women of reproductive age => 50%削減
	Low birth weight 低出生体重 TARGET: 30% reduction in low birth weight => 30%削減
	Childhood overweight 小児の体重過多 TARGET: No increase in childhood overweight => 3%未満
	Breastfeeding 6か月までの完全母乳 TARGET: Increase the rate of exclusive breastfeeding in the first 6 months up to at least 50% => 最低70%
	Wasting やせ TARGET: Reduce and maintain childhood wasting to less than 5% => 3%未満

2018年の第142回WHO執行理事会において、2025年までのターゲットの2030年までの延長に関する分析を確認（決定EB142(6)）（赤字が変更箇所、青字は変更なし）

PDCAの5回目：さらなる目標をたてる

「栄養不良」から「肥満への対策」へ



栄養障害の二重負担

4,200万人の5歳未満児が体重過多もしくは肥満

PDCAの5回目：さらなる計画を実施

国際保健のまとめ

何回もPDCAを回している

- MDGsの時代に世界の母子保健の状況は大きく改善
- SDGsの時代になっても、母子保健は引き続き、重要な課題のひとつ
- フォーカスは変化してきている
 - 生き延びる → 栄える、変える
 - より多セクター的な取り組みを必要とする課題
 - 小児、母性 → 新生児 → 10代の男女、Early Childhood Development
 - 栄養障害の二重負荷
 - 低栄養 → 低栄養 + 体重過多・肥満

PDCAの6回目～ 何回もPDCAを回す

国立国際医療研究センター国際医療協力局 岡林広哲医師の資料を元に作成



何故ミセスXは死んだのか



温室効果ガスの削減に効果が高いもの

『ドローダウンー地球温暖化を逆転させる100の方法』

(原題: Drawdown: The Most Comprehensive Plan Ever Proposed to Reverse Global Warming) から

- ①冷媒の脱フロン
- ②風力発電 (陸上)
- ③食料廃棄の削減
- ④植物性食品を中心とした食生活
- ⑤熱帯雨林の保護
- ⑥女兒の教育機会
- ⑦家族計画
- ⑧ソーラーファーム
- ⑨シルボパスチャー (林間放牧)
- ⑩屋上ソーラー



Amazonから引用



最後に

- ✓ SDGsの視点では医療の本来の姿をまず考え、得意分野の持続可能性を推進すべきである
- ✓ その上で医療福祉施設に関わるFMerは環境や社会にアンテナを張る推進役である

(公社) 日本ファシリティマネジメント協会

医療福祉施設の持続可能性を考えよう

ご清聴ありがとうございました



ファシリティードッグ
シャインオンザキッズ HPより